

Clinical Academic Topics

矢追インパクト療法(YIT)による眼裂の開大

Ophthalmic rejuvenation with YIT (Yaoi Impact Therapy)

山脇診療所
Yamawaki's Outpatient's Clinic

やまわき たかし
山脇 昂
Takashi Yamawaki

眼は全身状態・精神状態を最も有意に反映し物語る。何か目と関係のない身体病が見事回復した時眼裂はわずかでも開大しているはずである。多分そんなことを発表した例はないと思う。YITは目に対しても顕著な効果がある。眼科的疾患とばかり、眼科に委ねてしまうのでは、発展性がない。我々はずっと、YITをテコに疼痛性整形外科的疾患にも、機能的眼科疾患にも深入りすべきである。YITが主な治療対象としてきたアトピー性皮膚炎・アレルギー性鼻炎・喘息等アレルギー性疾患も色々な免疫的治療法が出てきて、減少傾向にある。

①右眼瞼下垂のご老人が来院された。精神科医等友人数人と酒を飲んでいた。その精神科医が「お前目が下がってきたぞ。早く眼科へ行きな」と言われ、かかり付けの眼科へ受診した。眼科では「こんなのそう簡単には治りません。大きな病院へ行ってください」と言われ、同日大病院の眼科を受診した。そこでも「今すぐどうこうする事も出来ない。後でMRIでも撮って精査しましょう」と目薬と抗生剤を投与されて帰ってきた。奥さんに「そんなところ行かずに今すぐ山脇先生のところ行きなさい」と言われて当院を受診した。その奥さんは何十年と酷いアトピー性皮膚炎に悩まされていたが、YITでぐいぐい

と快方へ向かっていた。当院は眼科でもないのに、奥さんは何か直観を感じたのだろうか。患者さんは「以前より右目がひどく疲れていて、焦点が合わず何時も二重に見えた。お酒飲んだら尚疲れ、目が下がってきた」と言う。YITで少し眼裂が開大するのは経験上知っていたので、やってみることにした。両前腕に3個ずつやったが、下垂した眼瞼に何か循環が蘇り、良くなったような印象があり、少し開大した。それから2週間に1回の割で3ヶ月やった。眼裂は左右全く遜色なくなり、二重に見えた焦点も全く一致し、目の疲労感も全く消失した。別に眼瞼下垂4症例を追加する。

②50代後半太ったタクシーの運転手、1か月ぐらい前から糖尿病で当院受診していた。ある日運転中に左黒目が左外側へ行かなくなった。左目をつむって、或いは手で覆って右片目だけで運転していたが、危なくてだめだから止めて来たと言う。黒目を移動させると、左黒目が真中よりほんの少し外側寄りまでしか行かない。外側直筋が麻痺したものと思う。YITを上眼瞼と外眼角部にやったら瞬時に動くようになり麻痺はとれた。患者さん自身が驚き、「こんな注射のせいではない。偶然治ったのだ」と言い残し、それ以来来院なし。

◆ Clinical Academic Topics ◆



症例 1



症例 2 新鮮例をもう 1 例

目が下がって驚いて大病院に行き、入院 1 週間メチコバル等の点滴を受けたが、全然反応なかった。私が YIT で治癒させた。



症例 3 陳旧例 1 例

20 歳の頃自動車の助手席に座っていて追突に合い、ダッシュボードに左目を強く打った。その後 60 年間下がったままだった。加えて斜視も治った。



症例 4 わずか 10 秒間開いた陳旧例

大病院の副院長のお母さん。7～8 年前大学病院で耳の前あたりを切り開き、眼瞼を上げるべく手術を試みられたが、全然反応なかった。YIT をやると私の前で約 10 秒は開眼するが又すぐ下がってしまう。まるで月下美人のように、5 回繰り返し。左顔面チックになり、元の大学病院へ行った。

他にも直ぐ治ると、「なんだこんな簡単に治るのか」とか「この注射のせいではない」と言われて、さげすまされることに遭遇しますが、外眼筋麻痺を回復させた例を示す。(症例 5)

③老御坊さんが来た。小股・すり足でやっとたどり着いたというふうである。当院は 2 階にあり階段を登らねばならず、1 人では暮らせなくなり、関西から子供を頼って、近くのマンションに引っ越してきたが、階段が登れず、何回かトライしたがだめで、困りに困って数日かかってやっとたどり着いた。いざ診

察室に入ろうとしたが、入らず立ち止まって、ずーとこちらを眺めている。言葉を発した「貴方はこんな極楽浄土のような所で診療しているのか」と。私の診察室には大きなガラス窓があり、見ると外は新緑で柔らかに日が射っていて、スズメが鳴き、モンシロチョウが舞っていた。老僧はすり足で入ってきたが、何も聞かずベッドに腹這に寝かせ、首から腰部まで YIT をやった。「起きて立ってください。足を挙げてください」と言うと言が挙がった。「歩いてみてください」と言うと言すり足ではなく、す

たすと歩けた。この老僧の眼つきが斜視だったので写真を撮っておいた。その次日には自分で新幹線を予約し、京都でレンタカーを借り、琵琶湖に近い故郷まで行って、市長に別れの挨拶とか、転居の手続きとか、全部終えて来たという。直ちにそのような行動をとれるようになったのは驚きです。その後3年ぐらい、以前の山歩きの習慣があり、毎日明治神宮・代々木公園の辺りを7.5 km歩いたという。聞けば、この僧は比叡山の中を100日修行3回やった阿闍梨だそうだ。千日修行はしなかったと言う。この僧の眼が治っている。斜視ではなくなっている。それから患者さん達の目を良く注意して見ることにした。(症例6)

④或る日本舞踊の師匠で80過ぎの御婆さんが来た。斜視で悩み、何十年と色々な眼科へ行っても治らなかった。今度は上眼瞼に直に打ってみようと思って遣ったが、さすがに沁みてすぐ痛かったという。しかし斜視は治っていた。腰にも打った。元気になり、機敏になった。この療法は眼瞼下垂とか、弛緩し力の弱った筋肉の立て直しに役立つ印象を持った。(症例7)

⑤糖尿病性網膜症で目が見えなくなった60歳の女性が夫に連れられて来院した。YITを遣ったら見えるようになり、その後何と、当院には来院されず、今迄何十年と通院されていた大病院の糖尿病科に通院を再開されていたが、約1年後又見えなくなり来院された。その時にはもう残念ながら救えなかった。だがこれは特記すべきことである。糖尿病性網膜症で見えなくなった目が見えるようになった。(症例8)

⑥眼裂が狭小で、本来自分の眼はこうなんだと疑いもしない人の眼も開大した。(症例9)

⑦大学病院眼科で大量のステロイドホルモンを使用し、視力を回復させたブドウ膜炎の男性の眼瞼も落ち、結膜に肉芽が多量に付着していたが、大学病院眼科ではそれ以上治せなかった。眼裂は大きくなり、白い結膜に戻った。(症例10)

⑧大病院で、網膜剥離で眼球を取り出し、後ろに枕を縫い付けた男性の眼も狭小になっていたが、YITにより開大した。(症例11)

⑨お年寄りの御婦人が旦那さんに連れられて来院した。如何にも見えそうもないと思うほど透明体が濁っていた。こんなの良くなるかと疑問に思いつつも遣ったが、数日後、にこにこして1人で遣って来た。少し見えるようになったと言う。(症例12)

⑩40代前半の某国の女性外交官が受診した。女性特有の肩こりとか疲労感を訴え、軽い全身浮腫がある。私も目の事は全く考えていなかった。眼鏡を外させ、腹這にして頸部肩腰にやり終わって、立ち上がり眼鏡を架け始めたら、何やら騒ぐ。眼鏡の度数が合わなくなり、見えにくくなったためだった。私が説明した。視力が悪くなったのではなく、改善したから合わなくなったのだと。本人はOOOO！OK！OK！と言ってびっくりし納得された。

⑪眼とは関係ない内科的疾患で来院された患者さん数名の眼も開大した。多分直前直後の写真を撮って比較すれば皆開大する。この事も重要なことだ。EBMではなくFBM (Fact Based Medicine) である。(症例13)

⑫片頭痛で悩む患者さん数名の眼裂も開大し、片頭痛も改善した。片頭痛には良く効く。その前兆 (aura) の閃輝暗点の発作中でもよく効く。(症例14)

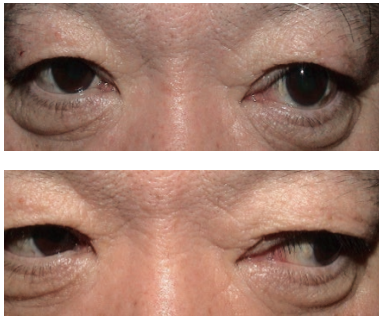
長年片頭痛で悩み、何故か腹部に Poly Surgery を受けていた方もパッチリした。(症例15)

⑬顔面帯状疱疹になり痛くて痛くてしょうがない患者さんの疼痛も、眼瞼の腫脹による眼裂の狭小も直ちに改善した。帯状疱疹1週間後の疼痛も消失した。(症例16)

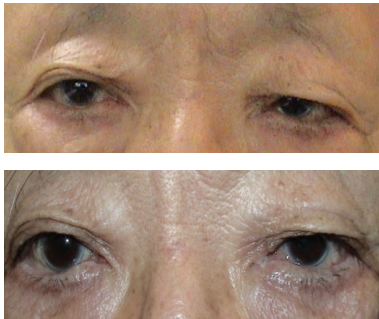
右側顔面帯状疱疹罹患後、3日目に左側帯状疱疹現れた人も治った。(症例17)

⑭角膜ヘルペスで数十年治療に悩んで来た人の毛細血管も消退した。(症例18)

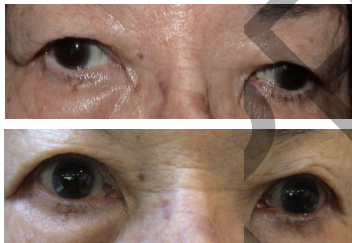
◆ Clinical Academic Topics ◆



症例 5



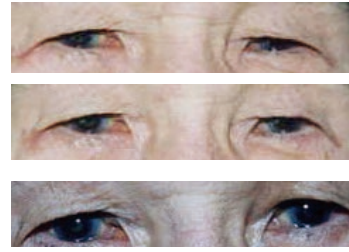
症例 6



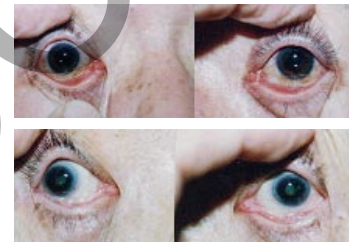
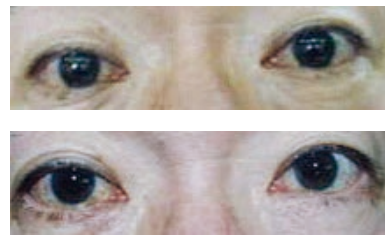
症例 7



症例 8



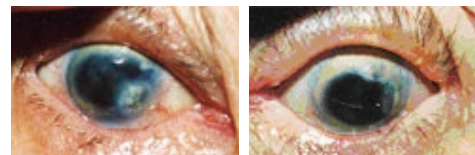
症例 9



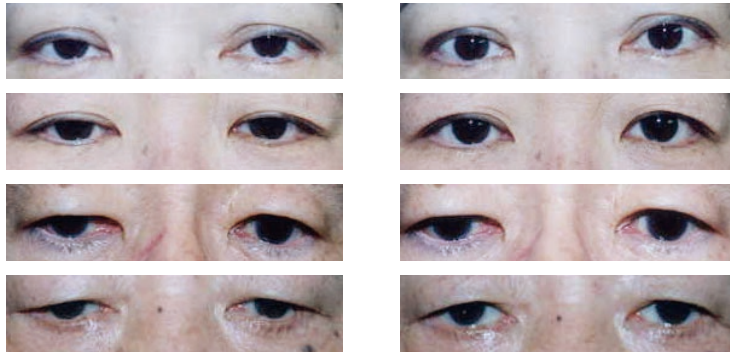
症例 10



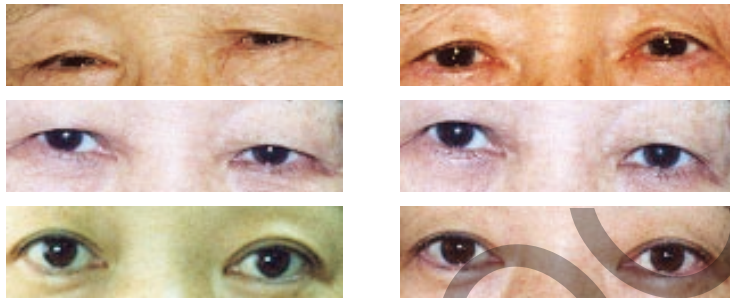
症例 11



症例 12



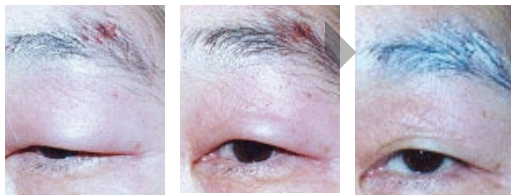
症例 13



症例 14



症例 15



症例 16



症例 17

◆ Clinical Academic Topics ◆

⑮数名の眼に関係ない、内科的疾患で来られた、ご老人達の細くなった眼裂も開大した。(症例 19)

⑯数名の癌末期のご老人達の眼も開大した。(症例 20)

⑰当院へ YIT を習いに来られた数名の Dr. の眼も開大した。3 番目の方は弱視。(症例 21)

⑱耳鼻科に行って、こんな治りませんと言われた、ラムゼーハント症候群で左顔面麻痺になった人も治った。でも聴力はがくと落ちたまま回復しなかった。(症例 22)

⑲美容による眼瞼糊付挙上された眼瞼もさらに挙上。(症例 23)

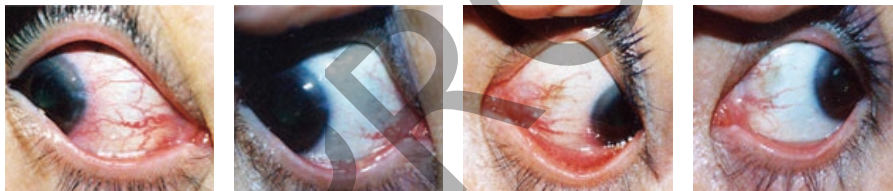
⑳義眼はさすがに挙上不可。(症例 24)

㉑子・母・祖母 いずれも目の疾患はない。祖母は涙目か？(症例 25)

眼科ではないので緑内障・白内障の事は何とも言えないが、長期間継続治療すれば改善して行くと思う。黄斑前膜の人に2年継続し

たが、本人からも、眼科医からもクレームはなかった。認知症の眼も開き、脳を刺激し、認知症の治療にも貢献できる可能性がある。重症筋無力症・筋萎縮性側索硬化症等難病にもチャレンジしてみたい。

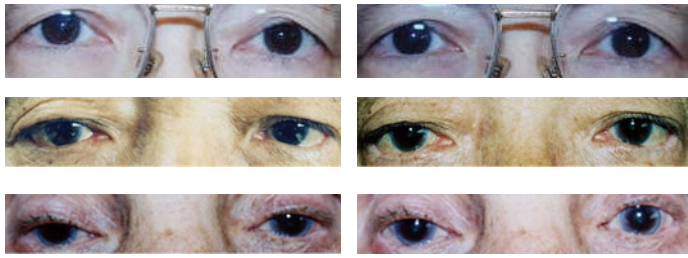
この療法は人工的(化粧)或いは人為的(手術的工作)により二重瞼とか眼瞼挙上をして目を大きくしたわけではない。この療法はごく自然に、目或いは眼瞼を刺激し、それにかかわる大きな有効エネルギーを発生させ、神経・脳を刺激し、活性化させた、若返りさせたということである。昨今増加して話題になっている近眼・遠視・老眼・緑内障・白内障に最も効果あると思うが写真ではそれらは示せない。認知症の治療にも貢献できる可能性がある。今現在認知症の進行速度を緩やかにすると標榜する保健薬はあるが、認知症の進行を逆行させ、元へ戻して行く薬剤や方策は存在しない。



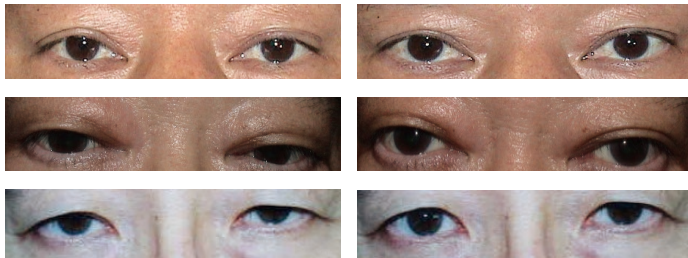
症例 18



症例 19



症例 20



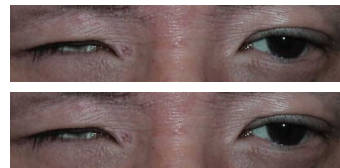
症例 21



症例 22



症例 23



症例 24

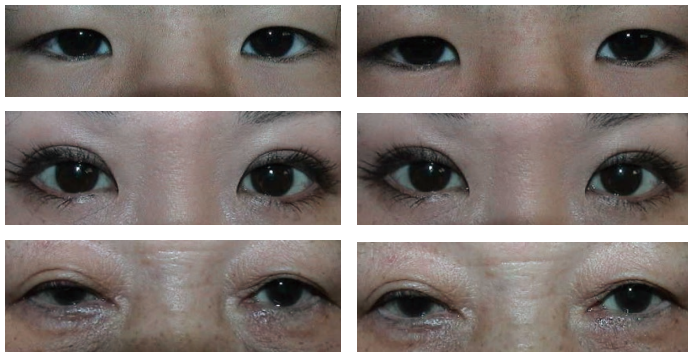


図 25